

もくじ

足立区議会による綾瀬駅設置の建議書 … P1 はい文化財係です! ④花畑遺跡出土の朝鮮半島系土器について(下) … P3 お化け煙突 60年⑪ … P4 千住大橋と大亀 … P4



昭和10年ごろの綾瀬川 江戸時代から江戸第一の勝地(「江戸繁昌記」と称えられた綾瀬川の姿です。(『写真で見る足立区40年の歩み』より)

# 足立史談

第673号

2024年3月15日  
足立区立郷土博物館内  
足立史談編集局  
〒120-0001  
東京都足立区大谷田5-20-1  
TEL 03-3620-9393  
FAX 03-5697-6562

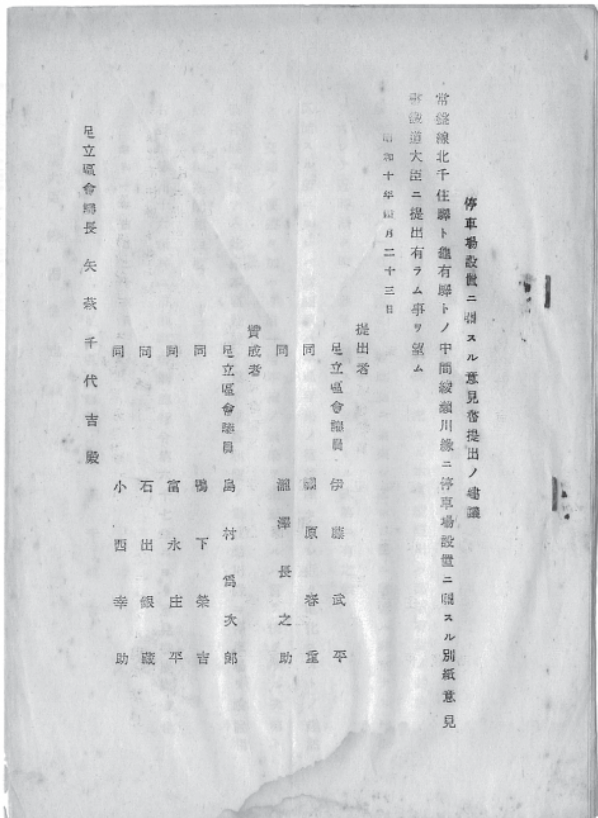
## 資料紹介

### 昭和10年 足立区議会による綾瀬駅設置の建議書

山崎尚之

綾瀬駅は八一年前の昭和十八(一九四三)年四月一日に開業しました。これまで昭和十五年に移転してくる府立江北中学校への通学のため、駅を新設するように運動があったことが知られていました。

(足立史談四二二号) 近年見出された資料によって、昭和十年に、駅設置の請願を行ったことがわかりました。努力を重ねてきた先人の様子がうかがえます。なお本資料は令和三年に開催した「名所の里 足立」(会期Ⅱ六月二二日〜九月五日)で展示した資料です。(編集)



令和三年四月に調査をさせていただいた新田の茂出木家の資料群の中に、停車場(綾瀬駅)設置の請願についての文書がありました(左写真)。綾瀬駅の設置は、現在の都立江北高等学校の開校と関係するものであり、それは同校が現在地に移転・開校した後に生徒の通学の利便性をはかるために当時の鉄道省に学校関係者が熱心に働きかけて、戦時中の昭和十八年四月に開駅されたというものです。しかし、それよりも八年ほど前の昭和十年(一九三五)に、足立区議会議員より綾瀬川の縁への新駅設置の、「停車場設置ニ關スル意見書提出ノ建議」という文書が区会議長宛てに提出されていることがわ

かりました。そこに書かれている停車場設置理由は、現在の綾瀬駅とその周辺からは想像できないような綾瀬川の清らかさとのどかさ、そして、それにひきつけられて集まる人々があつてのもののだとわかります。

綾瀬川が清流で人をひきつけていたということは、かつて漁が行われていて鰻やナマズがとれていたということ、また、絵画や絵はがきの対象にもなっていたということからもおわかりいただけるかと思えます。

では、今回見つかった文書の全文をご紹介します。(句読点は筆者が付きました)

停車場設置二関スル意見書提出ノ建議

常盤(ママ)線北千住駅ト亀有駅トノ中間、綾瀬川縁ニ停車場設置二関スル別紙意見書、鉄道大臣ニ提出有ラム事ヲ望ム。

昭和十年四月二十三日

提出者

足立区会議員 伊藤 武平

同 関原 春重

同 滝沢 長之助

賛成者

足立区会議員 島村 為次郎

同 鴨下 栄吉

同 富永 庄平

同 石出 銀蔵

同 小西 幸助

足立区会議長 矢萩 千代吉 殿

意見書

常盤(ママ)線北千住駅ト亀有駅トノ中間ヲ流ルル本区綾瀬川ハ、都下有数ノ釣魚ノ名所ニシテ、最近ハ一日数百名ノ者、此処ニ集来シ、之レガ為ニ、付近ハ非常ナル発展ヲナシテ、近時漸ク町ノ形体ヲ為スニ至リタル次第ニ有之候。

仄聞スル所ニヨレバ、常盤(ママ)線ハ本区年来ノ宿望達セラレ、近ク電化スルトノ趣、然ラバ交通ノ便益々加ハリ、層一層本線ノ繁栄ヲ招来スルハ言ヲ俟タサル次第ト被存候ニ付テハ、此際本区発展ノ為ト、乗客利便ノ為、綾瀬川縁ニ停車場ヲ設置相成候様、御高配相煩度、右市制第四十六條并ニ市制町村制施行令第六十七條ニヨリ意見書提出候也

昭和十年四月二十三日

足立区会議長 矢萩 千代吉

鉄道大臣 内田 信也 殿

(郷土博物館専門員 山崎尚之)

歴史地理案内③ 潮の満ち引きがある川 郷土博物館

■足立と周辺の川 隅田川を境に荒川区、中川を境に葛飾区と接しているように足立区は川に囲まれています。いずれの川も下流域にあるのですが、特徴的なのは、感潮区間という潮の干満にもなつて影響をうける河川であることです。水位でみると一日に二度、上がったりがつたりします。図1は二〇〇八年に撮影した六ツ木水門ですが、水門下部の信号機の左に水位表示板があり「現在の水位 A. P. +1. 20m」と表示されています。



図1 中川と花畑川をつなぐ六ツ木水門

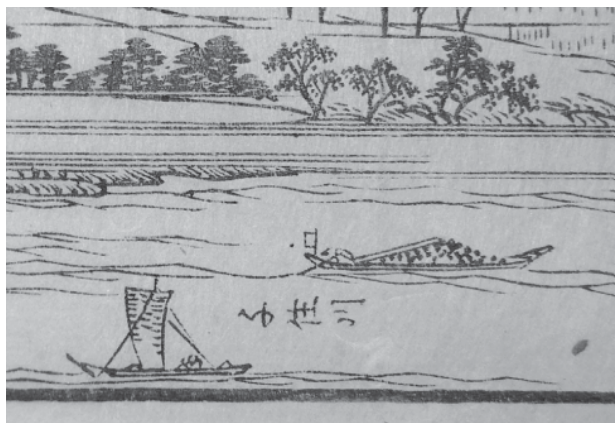


図2 隅田川の下りと上りの舟

これは水位が一・二m上がっていることを示しています(「A. P.」は荒川河口標準水位のこと)。水位の高さは2mほどにもなります。

■上り下りの舟 この感潮区間の特徴をうまく利用したのが、動力船登場以前の舟運です。図2は「江戸名所図会」(当館蔵)に描かれた高瀬舟で、帆をたたんで下流に向かう舟と、海からの風を帆にうけて上流に向かう舟です。ちなみに感潮区間は、隅田川では秋ヶ瀬付近(埼玉県)まで、中川でも八潮市付近(同)までに至ります。

上流と下流、双方向に運航できる利点は計り知れず、江戸東京と河川舟運で結ばれたことで人の交流と物流の繁栄を見せました。

写真1 陶質土器 有蓋高坏 (側面と外底面)

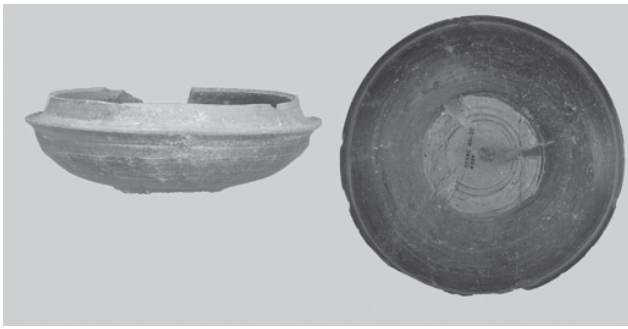


写真2 須恵器 甕 (はそう)



写真3 土師器 壺

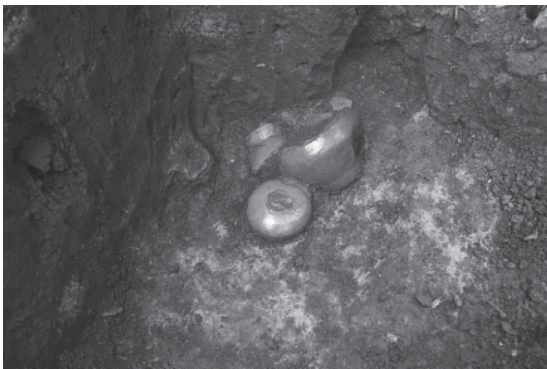


写真4 49号落ち込み 遺物出土状況  
\*「落ち込み」とは、人為的に掘られているが、性格が不明な遺構を示す。

また、軟質土器は住居跡から出土したものではないことから、区内では花畑遺跡が古墳時代の微高地集落としては最も東側で東京湾に近い位置取りであり、渡来人が一時滞在をした可能性があるのではと思います。

今回発見された計五点の遺物のうち、陶質土器・軟質土器・須恵器の制作年はいずれも四五〇〜四七五年の間に絞れることが判明し、年代が絞れなかった土師器も含めて、古墳時代中期のものということで、この時期における日本列島と朝鮮半島との関係の歴史を紐解くためのピースとして大変貴重な遺物であるため、一月十一日付で、49号落ち込み出土の計五点とも足立区の登録有形文化財として指定されました(正式名称:足立区登録有形文化財 花畑遺跡49号落ち込み遺跡出土朝鮮半島系土器および同一遺構出土遺物5点)。陶質土器と軟質土器は現在、伊興遺跡公園展示館にて展示を行っておりますので、是非現物を見にいらして下さい。(終)

(遺跡調査員 増田静香)

はい、文化財係です(41)

令和5年度 足立区登録有形文化財

花畑遺跡出土の  
朝鮮半島系土器  
について(下)

前号では、都内初の出土例となった花畑遺跡出土の朝鮮半島系の軟質土器について紹介しました。今号では、その出土状況と出土意義について報告します。

【朝鮮半島系土器と供伴遺物の出土状況】

今回発見され、前号で紹介した軟質土器は二個体分あり、陶質土器の有蓋高坏(写真1)、須恵器甕(陶器

TK2008 II おおよそ西暦四四〇〜四六〇頃の様式とされる(写真2)、土師器壺(写真3)の三点とともに計五点の遺物が、ある程度は復元できるほどの残存状況で同一遺構(49号落ち込み)内から出土しました(写真4)。ただ、当該遺構は、調査区範囲外まで延びていたため、全容の把握には至りませんでした。

【陶質土器と軟質土器の相違点】

陶質土器も軟質土器同様、三国時代の朝鮮半島で生産された朝鮮半島系土器です。陶質土器は、区内の伊興遺跡(花畑遺跡から一・五kmの南西の毛長川沿の微高地に立地)でも、百済産の細頸瓶と加耶産の壺が発見されていますが、これまでの発見個体数は少なく、希少な舶来品

であったことが推察されます。その一方で、軟質土器は日本の土師器と同様、当地でのライフスタイルに根差してその形状に定まったものであり、異なる食生活を送る人々同士が、時間をかけて交流をしないうちによりきなり交換するといったことは考えにくい物品です。また、軟質という名称が付される通り、陶質土器より柔いつくりをしており、交易品の対象とはなりえないのではないかとされています。

【軟質土器出土の意義】

足立区北部の遺跡群は、古代には古利根川・元荒川とも連絡していた河川であった毛長川と東京湾を介する水上交通の要衝的集落であると同時にに水害も頻発していたことがこれまでの発掘調査から言われています。

【関東での軟質土器の出土事例】  
なお、酒井清治教授(前号参照)によると、花畑遺跡以外の関東地方で軟質土器の見つかっている遺跡は、千葉県千葉市の大森第二遺跡で住居跡に伴って平底鉢・平底坏、群馬県渋川市の吹屋糺屋遺跡で把っ手付埴・長胴甕・甕、群馬県高崎市の剣崎長瀬西遺跡で長胴甕・甕・小型把っ手等の数遺跡の数例しかこれまでには発見されていないとのこと。

【登録文化財の公開について】

今回発見された計五点の遺物のうち、陶質土器・軟質土器・須恵器の制作年はいずれも四五〇〜四七五年の間に絞れることが判明し、年代が絞れなかった土師器も含めて、古墳時代中期のものということで、この時期における日本列島と朝鮮半島との関係の歴史を紐解くためのピースとして大変貴重な遺物であるため、一月十一日付で、49号落ち込み出土の計五点とも足立区の登録有形文化財として指定されました(正式名称:足立区登録有形文化財 花畑遺跡49号落ち込み遺跡出土朝鮮半島系土器および同一遺構出土遺物5点)。陶質土器と軟質土器は現在、伊興遺跡公園展示館にて展示を行っておりますので、是非現物を見にいらして下さい。(終)

# お化け煙突60年

11

設備と操作員⑤  
格和宏典

■主配電盤室 主配電盤室（主配と略した）からはタービン・発電機室が見通せ、分厚い防音壁に仕切られ騒音が遮断されており別世界でした。

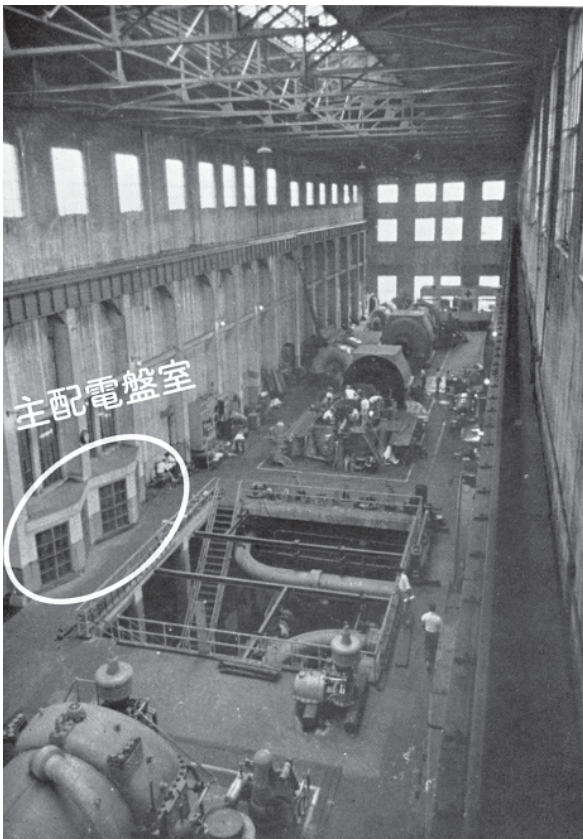
主配に入ると、正面に主配電盤と呼ばれるデスク型の配電盤が据えられ、垂直面には指示計器が並び、前には平面盤に操作スイッチや表示ランプがありました。デスクの前裾にはそれぞれの盤の制御目的である発電機とか主変圧器、送電線などの電圧や電流を計るための端子が出ていました。

■屋外変電所 変電所の主役は主変圧

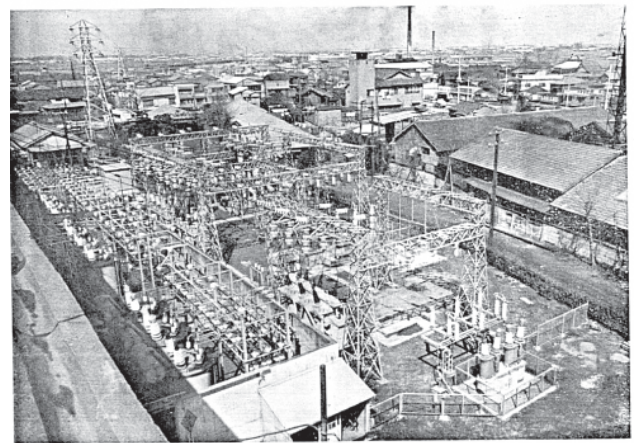
器9台で、水冷式、円筒型の本体内に冷却水管があり、深井戸水をポンプで循環し冷やしていました。地下水をくみ上げ、水処理を行い、各設備に送水するまでは汽缶係水処理担当の仕事でした。

発電所廃止後は北千住変電所（千住桜木1-13-2）となり60年が過ぎ去りましたが、技術の進歩により設備は新しいものに替えられたと思われるます。そして、現在も東京電力パワーグリッド北千住変電所として、当時の位置で現役として稼働しています。

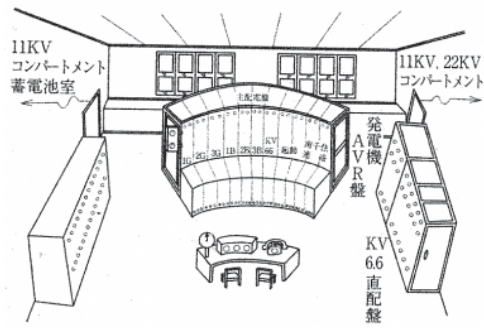
(つづく)



(写真) 汽機（タービン）・発電機室  
千住火力発電所記念アルバム集（格和氏寄贈）より



(写真) 屋外変電所  
千住火力発電所アルバム集より



(図) 主配電盤室内図  
『お化け煙突物語』 姫野和映著より

## 千住に伝わる民話がアニメに！ 「千住大橋と大亀」

一般社団法人「日本昔ばなし協会」が2018年から進めている「海ノ民話のまちプロジェクト」では、海にまつわる各地の民話をアニメ化し、民話に込められた人々の思いや、その背景を伝えていきます。

「千住大橋と大亀」は、千住七不思議の一つ。千住大橋の難工事を、川の主である大亀にからめたお話。潮の干満といった海の影響を表す民話として、「海ノ民話のまち」に東京都で足立区が初めて認定されました。また、あだち菓子本舗と「千住大橋と大亀」とのコラボ商品のお菓子も発売されます。

完成したアニメは2月7日にギャラクシテイで完成DVDの足立区への贈呈式と上映会が行われました。この作品はYouTubeでご覧いただけます。

